

一領具足の碑 いちりょうぐそくのひ

関ヶ原の敗戦によって、長宗我部氏(ちょうそかべし)は土佐一国を没収されることになった。一領具足(普段は自分の耕作地に居て農業を営みつつ、その傍らにわらしなどをくり付けた槍を立て具足を置いておき、いざ合戦となるとそれらを取り戦場に駆けつけた)。の代表者らは盛親への土佐半国分与を主張して浦戸城明渡しを拒んで籠城抵抗した。「浦戸一揆」といわれる事件である。しかし、慶長五年(一六〇〇)十二月五日、桑名一孝らの策略によって浦戸城は開城・接收された。一領具足の犠牲者は竹内惣右衛門以下二七三名にのぼり、その首は塩づけにされて大坂の井伊直政のもとへ送られたという。



海に面した地に、六体地蔵をはじめ、斬首された**二七三名の胴体を埋めた石丸塚**(石丸神社)、一領具足の碑などが建つ。この地は、一領具足の代表者たちが集まって評定しているところを襲撃された場所であると伝えられている。

石丸神社

(慶長五年(一六〇〇年)関ヶ原の戦後、遠州(静岡県)掛川城主山内一豊土佐の国主となる。長宗我部の浦戸城(徳島県建設地)明け渡しに際し「旧主のためにもめて」都でもと主張し頭強に抵抗した。悉く討ちとられ、十二月五日浦戸城は接收された。この抵抗した一領具足の二七十三人の首は塩漬にして十一月五日大坂の井伊直政のもとへ送られた。その胴体を埋葬し後に石丸塚として祀られたところ(西北二十米)に地元の有為五名によって建立された小祠が「石丸神社」である。

昭和三十三年桂浜観光道路建設の際、現在地に移された。

昭和六十二年十月
高知徳島宗校顕彰会二代目会長
濱口陽吉 建之

平成十一年二月吉日修葺